

キク科 チチコグサモドキ属

ミナミウラジオチチコグサ (南裏白父子草)

Gamochaeta coarctata (Willd.) Kerguelen

自生環境

公園、芝地、道ばた など

原産地

南アメリカ

予想される被害

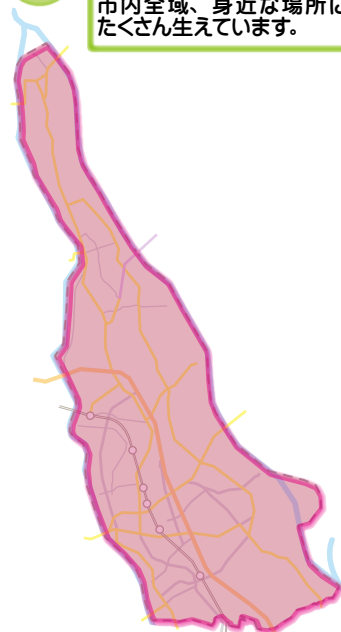
駆逐



チチコグサモドキなどの近縁種とともに、いたるところに広がっています。繁殖力がとても強いので、身近な野花の生育場所を奪ってしまう可能性があります。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所にたくさん生えています。



特徴

- ☆ 2019 年に刊行された『岐阜県植物誌』によると今までウラジオチチコグサとされてきたものはキタウラジオチチコグサとミナミウラジオチチコグサの2種類があるということです。その見解に沿い、以下ミナミウラジオチチコグサについて説明します。
- ☆ 日本には昭和40年代までに渡来したと考えられ、現在はかなり広い範囲に定着しています。日当たりのよい芝地や道ばたなどにごく普通に生えて、冬季のロゼットがよく目立ちます。葉は表側が濃い緑色で光沢があるのに対し、裏側は毛に覆われて白っぽく見えます。
- ☆ 茎は直立し、よく育ったものでは高さ 80cm ほどになります。春から夏にかけて、茎の先に多数の淡茶色の頭花をぎっしりとつけます。タネは淡茶色で長い綿毛がついており、風に乗ってあちこちに拡散していきます。

北と南の2種に分けられた

従来ウラジオチチコグサと呼ばれていたものには、北アメリカ原産のキタウラジオチチコグサ（以下キタ）と、南アメリカ原産のミナミウラジオチチコグサ（以下ミナミ）の2種類あることが分かりました。両者の最大のちがいはタネの色で、キタが赤みを帯びた色なのに対し、ミナミは淡茶色です。また、キタはミナミとは異なり、葉の表側にも綿毛が多くて白っぽく見える傾向があります。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

